

# やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	30 / 1987 / 23-25
タイトル	昭和61年10月25日 グダリ沼の調査2(プラナリア)
著者名	山道香

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

# 昭和61年10月25日グダリ沼の調査Ⅱ（プラナリア）

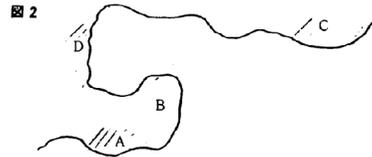
3年 山 道 香

weather 曇り

気温 7℃

水温 4.5℃

PM 2:00～4:00ごろ



初雪があって数日後の調査です。正直いって寒かったです……。

## POINT A

この前の調査では避けていた、水草でびっしり覆われているところを、思い切って調べてみました。水深は、わりと深く、20～30cmくらいでした。今回は50cmの枠は使いませんでした。

### イズミオオウズムシ

2.3 cm	1	2.0 cm	1	1.7 cm	1	1.3 cm	1	1.2 cm	1
1.1 cm	1	計 6 匹		平均 1.6 cm					

### ナミウズムシ

1.6 cm	1	1.5 cm	1	1.4 cm	1	1.3 cm	1	1.2 cm	1
1.0 cm	1	計 6 匹		平均 1.33 cm					

### カズメウズムシ

2.0 cm	1	1.7 cm	1	1.5 cm	2	1.4 cm	1	1.3 cm	2
1.2 cm	2	1.0 cm	3	0.8 cm	2	0.7 cm	3	0.6 cm	2
0.5 cm	1	計 20 匹		平均 1.075 cm					

### キタシロカズメウズムシ

0.7 cm…… 1

いました、いました、たくさんいました。『みんな、こんな所にかくれていたの？』という気分でした。カズメウズムシが、やはり多かったようです。

## POINT B

湧き水のにぎやかな、わりと大きめの石のある、最も調査しやすい、流れの

ない、わりと浅いこは、前回の調査では、ほぼ五分・五分でしたが、少しオウズムシの方が多かったのですが、どうなっているでしょうか。

#### カズメウズムシ

2.0 cm …… 2    1.8 cm …… 2    1.7 cm …… 1    1.6 cm …… 1    1.5 cm …… 1  
1.4 cm …… 1    1.2 cm …… 1    1.1 cm …… 3    1.0 cm …… 1    0.8 cm …… 1  
0.7 cm …… 2    0.4 cm …… 4                    計 20 匹    平均 1.155 cm

#### イズミオオウズムシ

1.8 cm …… 3    1.6 cm …… 2    1.5 cm …… 1    1.4 cm …… 2    1.3 cm …… 1  
1.2 cm …… 2    0.7 cm …… 4    0.6 cm …… 2    0.5 cm …… 2  
計 19 匹    平均 1.11 cm

やっぱり五分・五分とみた方がよいようです。ところでおもしろいことに気がつきました。水温もかなり下がっていて、プラナリアさんも寒いのでしょうか。石の隙間に数匹重なってくっついていたり、コケの間にもぐりこんだりしていました。採集できた数が多かったのは、このためかもしれません。

水温が下がっているところですが、湧き水とはいっても浅いのでやはり周囲の影響を受けるのでしょうか。

### POINT C

前回では、あまり思うように採集できなかった所です。水草によって少し流れのさえぎられている、そして中くらいの大きさの石のある所を調査してみました。昆虫の卵などが非常に多い所です。

#### カズメウズムシ

1.4 cm …… 1    1.2 cm …… 1    1.0 cm …… 2    0.8 cm …… 2    0.7 cm …… 3  
0.6 cm …… 1    0.5 cm …… 4    0.3 cm …… 3  
計 17 匹    平均 0.69 cm

#### キタシロウズムシ

0.9 cm …… 1    0.5 cm …… 1                    計 2 匹    平均 0.7 cm

数は多かったのですが小さいのばかりでした。イズミオオウズムシ、ナミウズムシはみられませんでした。

### POINT D

何もみつけれませんでした。移動したのでしょうか。採集の方法がヘタだとしても1匹もみつけれなかったということから、いたとしても、それほど

多くはないのだろうと予想してみました。余談ですが、ここで水温 4.5℃の中に片足を落としてしまい……（冷たかった！）……調査は終了になりました。

### 《反省・考察》

まず、感想のひとつ、「寒い、冷たい。」です。季節が季節なので、やはり寒かったのです。紅葉はちょうど真っ最中できれいでした。

今回は、二度目ということで少し気持ちに余裕があり、水の冷たさにもめげず、はりきって調査を行うことができました。

さて、プラナリアさんの様子ですが、前回とは全く違っているようなのです。冬ごもりのための移動でしょうか。わりと水草のある岸近くに移動しているように思えます。そして、数匹でびったりと寄りそっています。グダリ沼のプラナリアさんたちは、こうして冬をすごすのでしょうか。

### 《まとめ》

今年は部員が少なかったせいもあっていろいろな研究をすることができませんでした。そこで、来年は何をするべきか課題を考えてみました。

#### 1. 生態分布の調査の続行

まず、今まで続いているグダリ沼の調査を続行し、ここだけに止まらないで野内川各地点なども調査したいと思います。

#### 2. ナミウズムシの高山系と低山系との比較研究

各種類別に生態系を調べてみると、イズミオオウズムシは、主に静水域を好み、他のプラナリアは、ほとんど高山溪流・低温の溪流にいるようです。これに対し、ナミウズムシは広適温性で、わりとどこにでもみられます。飢我耐久力、再生力が強いといわれているこのナミウズムシですが、果たして、高山系のものと低山系のものに違いがあるのでしょうか。来年はグダリ沼のナミウズムシと野内川のナミウズムシとを比較しながら、温度変化と再生の速さを調べてみたいと思います。

#### 3. プラナリアの基本行動の研究

光・温度の変化に対する反応、エサを与えた時の動きなど種類別に観察してみたいと思います。